



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東
 コード番号 4118 URL <https://www.kaneka.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 稔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090
 (Investors & Public Relations) 部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	567,143	11.5	27,621	△17.1	26,601	△15.0	18,890	△14.2
2022年3月期第3四半期	508,716	20.7	33,317	92.7	31,288	147.7	22,021	128.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 27,794百万円(1.6%) 2022年3月期第3四半期 27,345百万円(65.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	286.61	285.86
2022年3月期第3四半期	337.55	336.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	788,686	427,259	51.8
2022年3月期	726,959	412,204	53.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 408,559百万円 2022年3月期 387,150百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	50.00	—	60.00	110.00
2023年3月期	—	55.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	756,000	9.3	36,500	△16.2	34,000	△16.7	24,000	△9.4	364.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	68,000,000株	2022年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,187,709株	2022年3月期	2,761,323株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	65,909,803株	2022年3月期3Q	65,239,177株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

- ・当社は、2023年2月8日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(会計方針の変更)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

➤ 世界経済の状況 —景気が減速し不安定化—

当第3四半期累計期間（2022年4月～12月、以下3Q累計）の世界経済は、ウクライナ問題を契機としたエネルギー・資源高騰、各経済圏でのインフレの拡大と金融引き締めを背景に、第3四半期（以下3Q）は景気に急ブレーキがかかり、為替の変動もあって不安定な情勢となっています。

➤ 当社グループの業績 —基盤事業が影響受けるも、先端事業群は伸長—

このような状況のなか、当社グループの3Q累計の業績は、売上高567,143百万円（前年同期比11.5%増）、営業利益27,621百万円（前年同期比17.1%減）、経常利益26,601百万円（前年同期比15.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益18,890百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

2023年3月期 第3四半期 連結業績 (単位：百万円)

	2022年3月期 3Q累計	2023年3月期 3Q累計	増減
売上高	508,716	567,143	58,426 (11.5%)
営業利益	33,317	27,621	△5,695 (△17.1%)
経常利益	31,288	26,601	△4,687 (△15.0%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22,021	18,890	△3,131 (△14.2%)

セグメント別売上高 (単位：百万円)

	売上高				前年同期比
	2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	
Material SU	88,919	83,975	77,812	250,707	33,469 (15.4%)
Quality of Life SU	45,000	42,194	43,812	131,008	4,869 (3.9%)
Health Care SU	16,623	17,369	18,658	52,651	10,630 (25.3%)
Nutrition SU	41,879	44,091	46,018	131,988	9,454 (7.7%)
その他	316	231	240	787	2 (0.3%)
計	192,739	187,863	186,541	567,143	58,426 (11.5%)

セグメント別営業利益 (単位：百万円)

	営業利益				前年同期比
	2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	
Material SU	10,756	7,947	3,767	22,470	△3,796 (△14.5%)
Quality of Life SU	4,600	4,069	4,386	13,056	△727 (△5.3%)
Health Care SU	3,856	3,653	4,471	11,981	3,561 (42.3%)
Nutrition SU	806	1,296	2,290	4,393	745 (20.4%)
その他	186	95	112	395	45 (13.1%)
調整額	△7,994	△8,460	△8,221	△24,676	△5,523 (-)
計	12,212	8,601	6,808	27,621	△5,695 (△17.1%)

3Qは、欧米の建材・建築市場の低迷やアジアの塩ビ市況の下落、エレクトロニクス市場の需給調整など当社の一部のセグメントでは需要の減退や市況下落が続き、業績に大きく影響を与えることになりました。一方、先端事業群（Health Care SUなど）では、当社らしい差別化技術を使った新製品の販売が順調に拡大し、成長が加速しています。基盤事業群においては、Foam、Foodsは原料価格上昇に対する価格改定などでスプレッドの改善が進み、収益基盤を強化しました。事業ポートフォリオ変革が着実に進んでいます。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

当ユニットは、欧米・アジアの景気減速の影響を強く受け、増収減益となりました。

- Vinylsは、3Qに入りか性ソーダは堅調に推移したものの、塩ビのアジア向け需要が低迷し、市況も低調に推移しました。
- MODは、2Qから欧米の住宅向け硬質塩ビ用途の需要が減速しはじめ、3Qにおいては顧客の大幅な在庫調整が続き、低調に推移しました。R&B活動を非塩ビ用途の市場拡大にシフトし収益力を強化しています。業績は3Qを底に回復基調に転じています。
- MSは、欧米の建築市場の低迷を受け、需要が一時的に減速しましたが、需要の基調は強く、昨年決定したベルギーでの能力増強に続き、米州の次期能力増強の検討を急いでいます。
- Green Planetは、日欧米の大手ブランドホルダーからたくさんの引き合いが広がっており、共同開発が拡大しています。また、国の重点政策である「バイオものづくり」の社会実装に向け、CO₂と水素からGreen Planetを生産する革新技术の研究開発に鋭意取り組んでいます。

② Quality of Life Solutions Unit

当ユニットは増収となりましたが、E&Iが需給調整の影響を強く受け、減益となりました。

- Foamは、価格改定が進むとともに国内向けの販売が堅調となり業績が回復しました。海外の自動車分野の需要は徐々に回復しつつあります。
- 世界的にエネルギー危機（電力不足）が問題となるなか、高効率PVへの期待が高まっています。東京都はじめ新築住宅へのPV設置義務化等の政策的な動きが全国的に広がるなど、当社PVへの引き合いは益々活発化しています。今年度中にヘテロジャンクションPVの増産ラインを稼働させ、住宅向け高効率太陽電池PVの旺盛な需要に 대응してまいります。車載用PVについても今春には本格出荷を開始する予定です。また、自己託送や自治体と連携したマイクログリッドなどCO₂削減に寄与する取り組みを積極的に進めています。
- E&Iは、3Qもスマートフォン市場・大型TV市場における大幅な需給調整が続き、ポリミド製品や液晶パネル用樹脂の販売が前年を下回りました。4Qの後半からはこれら需要の回復を見込んでいます。5Gやフレキシブルディスプレイ、画像センサー用途など当社ならではの新しい差別化製品のラインナップに注力しています。
- Fiberは、アフリカや米国のインフレ高進に伴い頭髪製品の需要は一時的に減速していますが、差別化新製品の投入により販売の拡大を図っています。

③ Health Care Solutions Unit

当ユニットは、Medical、Pharmaとも業績好調により大幅な増収増益となりました。

- Medicalは、新製品が好調で、血液浄化器およびカテーテルの販売が国内外で拡大しています。全社業績を牽引しています。最大市場の米国の販売体制の強化を急ぎ、Medical事業のグローバル拡大を一層加速します。新型コロナPCR検査キットに続き、新型コロナ・インフルエンザ同時検査キットも近日中に発売する予定です。
 - Pharmaは、バイオ医薬品事業が順調に拡大しています。全社業績を牽引しているSVの1つです。カネカユーロジェンテックは感染症ワクチンに加え遺伝子疾患やがん治療薬用で高成長が期待されるmRNA用生産設備の能力増強を決定しました。飛躍的な成長に向けて事業基盤を拡充しています。低分子医薬品では、新型コロナ治療薬「ゾコーバ[®]*1錠」向け中間体の販売が軌道に乗り、増販を計画しています。
- *1「ゾコーバ」は塩野義製薬株式会社の登録商標です。

④ Nutrition Solutions Unit

当ユニットは、増収増益となりました。

- Supplementは、還元型Q10の販売がアメリカ、日本に加えて欧州、オセアニア、アジア（中国）でも拡大しており、増産の検討を急ぎます。また、乳酸菌事業の拡大を受け、グローバルな生産販売体制の強化を進めています。機能性表示食品の品揃えを一層強化してまいります。
- Foods & Agrisは、食品全般の値上げが広がり、需要が低迷するなかで、高付加価値品の販売拡大と価格改定に注力しました。業績が拡大しました。8月発売の『わたしのチカラQ10ヨーグルト』はドリンクタイプの販売が特に好調となっています。生産能力律速となっており、増産体制の1stステップが完工しました。カネカ食品の新しいECサイトを立ち上げました。乳製品・パン・チョコレートなどBtoCの販売を強化しています。おいしさと健康をテーマに新たな価値を提供できる取り組みの大きな仕掛けとなっています。

(2) 財政状態に関する説明

➤ 資産、負債および純資産の状況

第3四半期末の総資産は前期末に対して61,726百万円増加の788,686百万円となりました。売上高増加に伴う売掛金および棚卸資産の増加に加え、設備投資の拡大による有形固定資産の増加等によるものです。負債については借入金の増加等により46,670百万円増加の361,426百万円となりました。純資産については利益剰余金の増加および為替換算調整勘定の増加等により15,055百万円増加の427,259百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

- 4Qからの業績の明るい兆しが見えるものの、3Qまでの業績を踏まえ、2022年11月9日公表の連結業績予想を修正いたします。

2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	760,000	40,000	39,000	27,000	410.05
今回修正予想 (B)	756,000	36,500	34,000	24,000	364.67
増減額 (B - A)	△ 4,000	△ 3,500	△ 5,000	△ 3,000	
増減率 (%)	△0.5	△8.8	△12.8	△11.1	
(参考) 前期連結実績 (2022年3月期)	691,530	43,562	40,816	26,487	406.01

セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	前回予想	今回修正予想	増減	前回予想	今回修正予想	増減
Material SU	340,000	335,600	△ 4,400 (△1.3%)	31,000	28,300	△ 2,700 (△8.7%)
Quality of Life SU	175,000	173,900	△ 1,100 (△0.6%)	17,000	16,400	△ 600 (△3.5%)
Health Care SU	71,000	70,700	△ 300 (△0.4%)	16,000	16,300	300 (1.9%)
Nutrition SU	173,000	174,800	1,800 (1.0%)	6,800	7,600	800 (11.8%)
その他	1,000	1,000	- (-)	500	500	- -
調整額	-	-	-	△ 31,300	△ 32,600	△ 1,300 (-)
計	760,000	756,000	△ 4,000 (△0.5%)	40,000	36,500	△ 3,500 (△8.8%)

第4四半期以降の為替レートおよび原料価格については、米ドルは130円、ユーロは140円、国産ナフサ価格は71,500円/KLを想定しております。

※ 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります。

- 本年1月のIMFの世界経済見通しは、2022年GDP成長率予想を3.4%に上方修正しました(昨年10月予測3.2%)。世界経済は、中国経済の早期の回復や米国・欧州の景気減速の緩和、自動車生産やエレクトロニクス市場の需給調整の底打ちなど回復材料も想定されますが、当面は景気の減速基調が続き、不透明感が強い情勢の見通しです。
- このような状況下、当社の4Qの業績は、Health Careが引き続き強い成長モメンタムを継続し、Medical、Pharmaが業績を牽引します。Foods & Agris、SupplementのNutritionも増益を維持する見通しです。3Qまで業績の停滞の主要因となったMaterialsおよびE&Iについては需要環境が改善し、販売の回復が見込まれます。4Qは、全セグメントにおいて業績が上向きとなるモメンタムを想定しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,735	37,752
受取手形、売掛金及び契約資産	164,128	175,707
有価証券	217	132
商品及び製品	69,183	90,362
仕掛品	12,171	12,900
原材料及び貯蔵品	59,128	67,505
その他	17,897	20,085
貸倒引当金	△1,552	△1,497
流動資産合計	362,910	402,949
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	92,052	95,940
機械装置及び運搬具（純額）	110,339	108,884
その他（純額）	68,883	85,858
有形固定資産合計	271,275	290,683
無形固定資産		
のれん	2,559	2,341
その他	12,417	13,011
無形固定資産合計	14,977	15,353
投資その他の資産		
投資有価証券	58,609	59,308
その他	19,488	20,672
貸倒引当金	△300	△280
投資その他の資産合計	77,796	79,700
固定資産合計	364,049	385,737
資産合計	726,959	788,686

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,068	100,467
短期借入金	89,992	119,585
未払法人税等	3,466	2,469
引当金	134	1
その他	48,839	48,508
流動負債合計	234,502	271,033
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	28,627	25,626
引当金	2,626	2,391
退職給付に係る負債	31,559	30,892
その他	7,439	21,482
固定負債合計	80,253	90,393
負債合計	314,755	361,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	31,392	32,231
利益剰余金	309,507	319,095
自己株式	△11,528	△8,302
株主資本合計	362,417	376,071
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,331	22,047
繰延ヘッジ損益	△4	2
為替換算調整勘定	4,381	10,953
退職給付に係る調整累計額	△975	△514
その他の包括利益累計額合計	24,732	32,488
新株予約権	619	622
非支配株主持分	24,435	18,077
純資産合計	412,204	427,259
負債純資産合計	726,959	788,686

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	508,716	567,143
売上原価	362,443	416,165
売上総利益	146,273	150,977
販売費及び一般管理費	112,955	123,355
営業利益	33,317	27,621
営業外収益		
受取配当金	1,401	1,607
為替差益	195	1,993
持分法による投資利益	105	123
その他	675	742
営業外収益合計	2,378	4,466
営業外費用		
支払利息	792	1,339
固定資産除却損	951	1,142
その他	2,662	3,004
営業外費用合計	4,406	5,487
経常利益	31,288	26,601
税金等調整前四半期純利益	31,288	26,601
法人税、住民税及び事業税	6,163	6,223
法人税等調整額	1,991	761
法人税等合計	8,154	6,985
四半期純利益	23,134	19,616
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,112	726
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,021	18,890

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	23,134	19,616
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	469	732
繰延ヘッジ損益	△11	7
為替換算調整勘定	3,137	6,971
退職給付に係る調整額	620	465
持分法適用会社に対する持分相当額	△4	1
その他の包括利益合計	4,211	8,178
四半期包括利益	27,345	27,794
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,149	26,646
非支配株主に係る四半期包括利益	1,196	1,148

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国会計基準を適用している在外子会社において、第1四半期連結会計期間より、ASC Topic842「リース」を適用しております。当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	217,237	126,138	42,020	122,533	507,931	785	508,716	—	508,716
セグメント間の 内部売上高又は振替高	617	30	0	38	686	813	1,499	△1,499	—
計	217,854	126,169	42,020	122,572	508,617	1,598	510,215	△1,499	508,716
セグメント利益	26,267	13,784	8,420	3,648	52,120	349	52,470	△19,152	33,317

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	52,120
「その他」の区分の利益	349
セグメント間取引消去	△8
全社費用(注)	△19,176
その他の調整額	31
四半期連結損益計算書の営業利益	33,317

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	250,707	131,008	52,651	131,988	566,355	787	567,143	—	567,143
セグメント間の 内部売上高又は振替高	246	25	—	40	312	844	1,156	△1,156	—
計	250,953	131,033	52,651	132,028	566,667	1,632	568,300	△1,156	567,143
セグメント利益	22,470	13,056	11,981	4,393	51,902	395	52,298	△24,676	27,621

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	51,902
「その他」の区分の利益	395
セグメント間取引消去	1
全社費用(注)	△24,751
その他の調整額	73
四半期連結損益計算書の営業利益	27,621

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。